

潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育の活動報告

**Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training Project
for Potential Nursery Teachers.**

澤 津 まり子 ・ 田 中 誠
秋 山 真理子 ・ 松 本 希
鎌 田 雅 史 ・ 笹 倉 千佳弘
柴 川 敏 之 ・ Z. 山 田 章 子
荊 木 まき子 ・ 伊 藤 優

潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育の活動報告

Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training

Project for Potential Nursery Teachers.

澤津まり子 (幼児教育学科)・田中 誠 (幼児教育学科)

SAWAZU Mariko

TANAKA Makoto

秋山真理子 (幼児教育学科)・松本 希 (幼児教育学科)

AKIYAMA Mariko

MATSUMOTO Nozomi

鎌田雅史 (幼児教育学科)・笹倉千佳弘 (幼児教育学科)

KAMADA Masafumi

SASAKURA Chikahiro

柴川敏之 (幼児教育学科)・Z.山田章子 (幼児教育学科)

SHIBAKAWA Toshiyuki

Z.YAMADA Akiko

荊木まき子 (幼児教育学科)・伊藤 優 (幼児教育学科)

IBARAKI Makiko

ITO Yu

I はじめに

現在岡山県では、保育所入所希望者が年々増加しており、保育を支える保育士の人材確保が急務となっている。今を生きる子どもたちの健やかな育ちを支援し、かつ、貧困家庭の支援、社会参画し自己実現を図りたい保護者支援のためには、待機児童の解消が必須条件である。資格を持ちながら保育士として働いていない潜在保育士を掘り起し、保育所等への職場復帰に向けた支援が必要とされている。

そこで、現場経験がない、結婚・出産による退職、長期にわたって保育から遠ざかっているなどの理由から、保育士の仕事への復帰を思い悩む人のために各種の研修会を実施し、復帰への後押しを行うことを目的として、本学幼児教育学科では、平成26年に潜在保育士復職支援プロジェクトを立ち上げた。平成26・27年は岡山県の委託事業として、28年は公益財団法人福武教育文化振興財団の助成を受けて活動した。

初年度は卒業生を対象として実態調査を実施し、潜在保育士の離職の要因を探った¹⁾。その結果、保育現場における人間関係を中心とした職場環境が大きく影響していることが示された。現職者へのケアとして、職場環境を改善することによって、働く意欲を高める必要がある。離職者を防ぐ対策の一環として、卒後の継続したリカレント教育の実施も求められている^{2,3)}。実態調査と並行して、潜在保育士の復職支援研修及び情報交換会を実施した。本稿では3年間の活動内容を報告することとする。

Ⅱ 活動の内容

平成26年は本学の卒業生の潜在保育士を対象に、27年は岡山県下全ての潜在保育士を対象に研修等を実施した。また28年は実態調査に基づいて、潜在保育士だけではなく、現職保育者を対象とした卒後リカレント教育の場を兼ねて研修を実施した。

1. 研修会

潜在保育士復職支援研修会を平成26年8講座、27年13講座、28年5講座、本学において実施した。詳細は表1・2・3の通りである。

表1. 平成26年潜在保育士復職支援研修会一覧

日程	講義内容 (10時～12時)	受講者	講義内容 (13時～15時)	受講者
11月8日	保育指針 (最新の保育事情)	28名	音楽表現 (器楽・声楽)	23名
11月29日	障がい児保育	19名	身体表現	16名
12月13日	環境・言語	17名	造形表現	13名
1月10日	相談事業	15名	情報交換会	15名
1月27日	就実こども園での体験実習 (8時～16時) 受講者7名			
2月14日	救命救急 受講者11名			
2月17日	就実こども園での体験実習 (8時～16時) 受講者4名			
2月21日	就実こども園での体験実習 (8時～16時) 受講者7名			

表2. 平成27年潜在保育士復職支援研修会一覧

日程	講義内容 (10時～12時)	受講者	講義内容 (13時～15時)	受講者
6月27日	保育原理	7名	図画工作	9名
7月4日	障がい児保育	9名	声楽	9名
7月11日	環境	8名	器楽	8名
11月7日	保育行政	6名	教育相談	7名
11月14日	声楽	7名	特別支援	10名
11月21日	言葉	9名	乳児保育	11名
12月10日	就実こども園での体験実習 (9時～16時) 受講者3名			
12月12日	就実こども園での体験実習 (9時～16時) 受講者4名			
12月15日	就実こども園での体験実習 (9時～16時) 受講者3名			
12月19日	救命救急 受講者4名			
2月6日	情報交換会 (山陽学園短期大学と共催) 受講者18名			

表3. 平成28年潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会一覧

日程	講義内容 (10時～12時)	受講者	講義内容 (13時～15時)	受講者
8月20日	保育原理	11名	幼児体育	9名
8月27日	特別支援	7名	器楽	7名
9月3日	障がい児保育	7名	情報交換会	6名
9月7日	就実こども園での体験実習 (9時～16時) 受講者6名			
9月17日	就実こども園での体験実習 (9時～16時) 受講者4名			

*本年と次年の2カ年で1サイクル(全科目)になるよう、実施予定である。

以下に研修会の様子を示す。



①特別支援



②器楽



③幼児体育



④図画工作



⑤就実こども園での体験実習



⑥情報交換会

2. 体験実習

就実こども園において保育士の日常業務を体験した。平成26・27年は3日間、平成28年は2日間実施した。詳細は表1・2・3の通りである。この実地研修では、保育の環境における基本を学び、午睡中には入ったクラスの担任への質疑応答の時間を設け、個別の対応について解説を聞いた。子どもと直接関わる中で、年齢による発達過程や個人差等の違いを理解したうえで、その場に応じた対応の仕方を学習する機会となった。

3. 情報交換会

復職保育士や地方自治体の担当者を交えた情報交換会を、平成26年及び28年は本学で、27年は山陽学園短期大学と共催し学外で実施した。詳細は表1・2・3の通りである。

平成26年は、地方自治体の担当者から求人情報や勤務内容等について説明があり、その後、卒業生の現職園長及びクラス担任からは、保育園の現状やどういう思いで日々の保育をしているかなど、保育現場ならではの情報提供があった。平成27・28年は、地方自治体の担当者から復職支援への取り組みに加え、復職に成功した前年の受講者による復職までの体験談(研修を受けるきっかけや研修会後の心境の変化、就職までの経緯)の報告を行った。受講生から再就職にあたっての心配事や疑問点についての質問に対して、地方自治体の担当者及び復職者から解決に向けてのアドバイスを受けた。

Ⅲ 得られた成果及び評価

1. 研修アンケート調査

1) 研修会の受講者に対し、無記名式のアンケートを実施した。その結果は以下の通りであった。

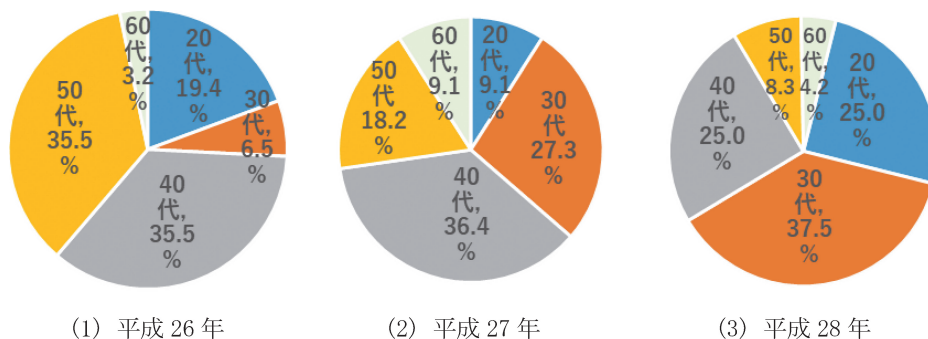


図1. 受講者の年代

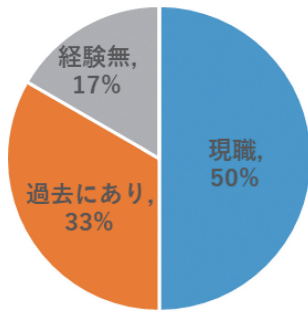


図2. 受講者の就労経験（平成28年）

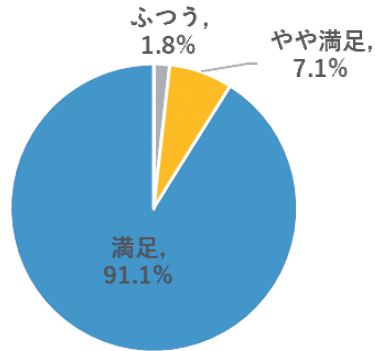


図3. 受講者の満足度（平成28年）

2) 感想

自由記述欄に寄せられた主な感想は、以下の通りであった。

- ・ 5年ほどブランクがあるので保育について認識を深められて非常にありがたい。
- ・ 経験がなく、なかなか一步を踏み出せないでいたが、ボランティアで少しでも経験してみたいと思った。
- ・ 通信教育で保育士の資格を取得したので、講義がとても新鮮で大変勉強になった。このような勉強する機会があれば、何度も参加したい。
- ・ 「人として」子どもに向き合うことの大切さ、環境（日常の）生活の中で自分も含め、子どもが気づき、伝えることの大切さを身をもって感じた。
- ・ 保護者へ寄り添った形での関わり方、信頼関係の重要性、ストレスへの対処の仕方など勉強になった。
- ・ 日頃、保育業務に追われているので、この機会に立ち止まって見つめ直すことが出来て良かった。
- ・ 園に持ち帰り、日々の保育に役立てたい。

以上の研修アンケート調査から、受講者の年齢層は、20歳代から60歳代まで、幅広い年齢層であったことがわかった。

平成28年からの卒後リカレント教育の場としては、受講者の約半数が現職であった（図2参照）ことから、今後さらに現職者が増加する可能性があると思われる。

また、受講者の満足度をみると、満足している者が9割を超えていることから、概ね研修内容は期待にそっていると思われる。

2. 潜在保育士復職支援の実施状況

潜在保育士復職支援プロジェクトの実施状況を動向調査によりまとめると、以下の通りである。

表4. 潜在保育士復職支援の実施状況表

項目	平成26年	平成27年	平成28年
研修受講申し込み者数	52名	24名	28名
実際の研修受講者数	31名	22名	24名 (内潜在12)
就職者数 (内定者含む)	5名	5名	7名

*平成29年1月31日現在

復職支援の成果として、平成26年は5名(5/31, 16%)、平成27年は5名(5/22, 23%)、平成28年は7名(7/12, 58%)であった。復職者の割合が上昇しており、支援研修の成果が認められる。

IV 残された課題とその解決への展望

潜在保育士復職支援プロジェクトが発足して3年経過するが、知名度不足を痛感している。受講者を多く募るための広報活動として、ポスター・チラシ(図4)、本学ホームページでの特設ページ(図5)の他、SNS、TV、ラジオ、新聞広告を使った戦略に力を入れ、本学卒業生以外への告知、同時にリカレント研修の場でもあることを強調し、受講者の拡大を引き続き模索していきたい。

研修日程については、時期と曜日について、検討の余地が残されている。受講者にとって参加しやすい日程は、受講者の年齢層によって異なると思われるため、受講者が多いと予測される年齢層への配慮も必要であろう。

研修内容については、概ね満足されていたようである。さらに、一人ひとりの受講生の意見に謙虚に向き合い、ニーズを把握したうえでの内容等の改善が望まれる。

また、潜在保育士に着目するだけでなく、これ以上潜在保育士の増加をくい止めるためにも、現職者のケアが喫緊の課題である。保育現場においては、人間関係を中心とした職場環境の改善を図り、働く意欲を高めることが必要である。そのための園内研修に養成校から積極的に講師を派遣することも提案したい。さらに、養成校における卒後の継続したリカレント教育も必要であろう。リカレント教育の場としては、研修会に止まらず、学園祭時の里帰りトーク会も有効であろう。少グループで、あるいは教員と一対一のメンタルヘルス教育の機会を設け、学生時代の延長線上で、保育者として歩み続ける際の底力となるような学びを模索・実践し続けるサポート体制の充実が必要ではないかと考える。

今まで以上に行政とより強固な連携をとりながら、他の大学との連携を図るなど、横縦のつながりを構築することも必要であり、養成校、保育現場、保育行政が協働で保育環境の改善に取り組むことが期待される。



図4. ポスター・チラシ



図5. 本学ホームページの特設ページ（部分）

謝辞

潜在保育士復職支援プロジェクトを立ち上げた当初から関わり、研修を担当された山根薫子、蔵永瞳両先生に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 澤津まり子、鎌田雅史、山根薫子（2015）「潜在保育士の実態に関する調査研究－離職の要因を探る－」『就実論叢』45,pp.191-200.
- 2) 遠藤知里・竹石聖子・鈴木久美子・加藤光良（2012）「新卒保育者の早期離職問題に関する研究Ⅱ：新卒後5年目までの保育者の「辞めたい理由」に注目して」『常葉学園短期大学紀要』43,pp.155-166.
- 3) 森本美佐・林悠子・東村知子（2013）「新人保育者の早期離職に関する実態調査」『奈良文化女子短期大学紀要』44,pp.101-109.